

連携・協働のカ・タ・チ

令和2年8月18日発行 福島県教育庁会津教育事務所



共に支え合い、誰もが安心して暮らせる街をつくりたい②

～障がいを持つ方と健常者の架け橋に～ 県立喜多方東高等学校 家庭クラブ

前号に続き、県立喜多方東高等学校家庭クラブの地域貢献活動の取組について紹介します。

地域に発信！ 地域で活動！ ～ 令和元年度の活動 ～

令和元年度は、聞き取り調査をもとに、誰もができる聴覚に障がいのある人への支援方法をまとめたポスター、リーフレットを作成し、喜多方市役所のロビーに掲示したり、地域の方も参加できる盲導犬ユーザーのトークイベントを開催したりするなど、地域での発信、イベント開催等の地域貢献活動に取り組みました。

《喜多方市「市民活動フェスティバル」にて》



手話サークルの方々と一緒に指文字表の準備をする家庭クラブ員

家庭クラブ員が製作した手話の基本を学ぶことができる指文字表



《喜多方市役所ロビー展示 ～障がい者週間～》



手話の基本を学ぶことができる学習グッズを手話通訳の方と一緒に市役所ロビーに展示

《盲導犬ユーザーのトークイベントの開催》



会津唯一の盲導犬ユーザーとパートナー犬を招き、地域の方との交流機会を設定

☆裏面（家庭クラブ員の活動の感想等）をご覧ください👉

◇◆◇◆◇活動全般における生徒の感想から◇◆◇◆◇



家庭クラブの活動を始めてから、目や耳が不自由な方の気持ちになって考えるようになったり、周りによく目を向けるようになったりしました。今までだったらためらっていたことも行動できるようになり、充実した毎日です。（喜多方東高校 2年 佐藤 蓮さん）

家庭クラブの活動を通して、今まで知らなかった地域のことを知ることができました。地域の方とかかわる機会も増え、地域社会の様々なことに目を向けるようになりました。（喜多方東高校 2年 鈴木 姫結さん）



家庭クラブの活動は、地域貢献や障がいを持つ方への支援の大切さを学ぶことができます。ポスター、手話カードなどは手作りで大変ですが、やりがいがあります。喜多方市が今よりもっと、誰にとっても住みやすいところになるよう、私たちが率先して行動していきたいと思います。（喜多方東高校 2年 白岩 きららさん）



この実践から学ぶポイント！

課題発見・解決のヒントは、ニュースや授業の中にある！

喜多方東高校の家庭クラブの生徒は、盲導犬ユーザーがホームから線路に落下し、死亡するという痛ましいニュースから問題意識を持ち、授業で手話の基本を学んだことから、「自分たちにも聴覚に障がいのある方の支援ができるのではないか」という課題解決のヒントを見出しました。

課題発見・解決のヒントは、生徒の身近にあります。日頃からテレビや新聞等のニュースに関心を持たせたり、授業の学びを地域社会の問題等と結び付けて考えさせたりすることが、子どもたちが地域課題解決に踏み出すきっかけとなります。



自分たちが地域づくりの“主人公”になる！

地域貢献活動で大切なのは、「大人に頼る」のではなく、自分たちが地域づくりの主人公になって、「大人を巻き込む」ことです。

喜多方東高校の家庭クラブの生徒は、自分たちが住む地域を良くしようと、若い感性から生まれた知恵や発想を生かして、地域の関係機関や関係者と関わり合いながら活動しています。

生徒の感想からは、「自分たちで地域をよくしたい」という思いや「自ら考え、行動できる人になりたい」という思いが強く感じられます。